

2003年11月14日

各位

会社名 森下仁丹株式会社
代表者名 代表取締役社長 岡崎康雄
(コード番号 4524 東証,大証第2部)
問合せ先 専務取締役 倉掛長吉
TEL 06-6761-1131(代表)

2004年3月期中間期及び通期業績予想の修正について

最近の業績の動向を踏まえ、2003年5月23日の前期決算発表時に公表の業績予想を下記のとおり修正いたしますので、お知らせいたします。

[1] 2004年3月期中間期(2003年4月1日~2003年9月30日)の業績予想の修正

1. 2004年3月期中間期の個別業績予想数値の修正

	単位	売上高	経常利益	中間当期純利益
前回発表予想(A)	百万円	5,200	100	50
今回修正予想(B)	百万円	5,514	5	216
増減額(B-A)	百万円	314	95	166
増減率	%	6.0	95.0	332.0
前中間期実績 (2002.4.1~2002.9.30)	百万円	4,952	1,411	50

2. 2004年3月期中間期の連結業績予想数値の修正

	単位	売上高	経常利益	中間当期純利益
前回発表予想(A)	百万円	5,500	100	50
今回修正予想(B)	百万円	5,744	21	217
増減額(B-A)	百万円	244	121	267
増減率	%	4.4		
前中間期実績 (2002.4.1~2002.9.30)	百万円	5,306	1,463	117

3. 修正の理由

昨年度から続く厳しい経済環境の中、個人消費は低迷したままの状況が続いております。その中で当社は今期に入り、カプセル受託事業における複数の大型案件の成約に努力するとともに、テレホンマーケティング通販事業の拡大に取組みました。その結果、カプセル受託事業における大型案件2件の成約を実現するとともに、テレホンマーケティング通販事業については商品内容説明型販売促進を積極的に展開し売上高は前年同期比大きく伸張しました。これらのことより本中間期の売上高は当初予想を上回る見込となりました。しかしながら、経常損益につきましては、カプセル受託事業の大型案件の本格的供給開始が当上期期末からで本中間期での貢献は少なく、ミラセル工場の稼働率改善が進まなかったため、本中間期の経常利益は当初予想を下回る見込であります。また、本中間純損益につきましては、当社において投資有価証券売却益(520百万円)等があり、個別中間純利益は当初予想を上回る見込であります。連結子会社における有利子負債削減のための不動産売却による売却損があり、連結中間純損益は当初予想を下回る見込であります。

[2] 通期の業績予想修正について

通期（2003年4月1日～2004年3月31日）の業績につきましては、本中間期に成約したカプセル受託事業における大型案件2件につき本格的供給となること、また、テレホンマーケティング通販事業における商品内容説明型販売促進を積極的に展開することにより、売上高は当初見込を上回る予想であります。また、経常利益につきましては、カプセル受託事業の大型案件が本格稼働することからミラセル工場の稼働率が向上し、本下期は当初の経常利益となる予想であります。通期の当期純利益につきましては、本下期に当社において有利子負債のさらなる削減のための投資有価証券売却に伴う売却益を想定しており、下記のとおり予想しております。

1. 2004年3月期通期（2003年4月1日～2004年3月31日）の個別業績予想の修正

	単位	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	百万円	10,500	250	150
今回修正予想(B)	百万円	11,500	150	550
増減額(B A)	百万円	1,000	100	400
増減率	%	9.5	40.0	266.7
前期実績 (2002.4.1～2003.3.31)	百万円	7,313	2,511	3,396

2. 2004年3月期通期（2003年4月1日～2004年3月31日）の連結業績予想の修正

	単位	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	百万円	11,100	250	150
今回修正予想(B)	百万円	12,000	150	150
増減額(B A)	百万円	900	100	
増減率	%	8.1	40.0	
前期実績 (2002.4.1～2003.3.31)	百万円	7,928	2,601	3,095

以上